

科目名	人体の構造と機能及び疾病						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	林田朋子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科 3年						
授業概要	少子高齢化の日本の現状において、福祉系職種も適切なソーシャルワーク、ケアマネジメント、地域ケアのコーディネートによって医療職種との連携が必須となっている。多職種協働を目指すために、この授業では、医学に関する基本的知識を身につける。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					人の成長・発達と老化の特徴を学び、説明することができる。	
	○					身体の構造と心身の機能を学び、説明することができる。	
	○					代表的な疾病、障害を学び、利用者の状態を説明することができる。	
		○					医療の現場の状況を知るために情報を集めることができる。
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座(人体の構成と機能及び疾病) 社会福祉士ナビ 医学一般 からだの事典 国試対策問題集						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	科目ガイダンス 自己紹介 授業の進め方 医療と福祉				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	人の成長・発達と老化① 身体・精神の成長と発達				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	人の成長・発達と老化② 高齢者に多い疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	身体構造と心身の機能 身体の全体像				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	身体構造と機能 ・疾病の概要 血液				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	循環器系の構造と機能				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	泌尿器系の造と機能				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	呼吸器系の構造と機能				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	消化器系の構造と機能				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	神経系の構造と機能				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	内分泌系 ・ 生殖器系の構造と機能				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	支持運動器系の構造と機能				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	感覚器系の構造と機能 感染症				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	定期試験対策 国試対策に準じる① 過去問24回～26回 模擬問題					
15	定期試験対策 国試対策に準じる② 過去問27回～30回						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)宿題を出す。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				90%
	宿題・レポート	○	○		◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	相談援助の理論と方法Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	亀田 尚		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科 3年						
授業概要	「相談援助の基盤と専門職」と「相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ」を受けた形で、ソーシャルワークの理論的な基礎力を高めて、更に応用力を身につけることを目的とする。そのために、ケアマネジメント・ネットワーキング・様々な実践モデルやアプローチの現場実践への応用を学ぶ。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					相談援助の理論と原則を理解し、説明できるようになる。	
		○				相談援助の地論と原則を、事例等を通して現場に即して応用できる能力を習得する。	
		○		○		ソーシャルワークの魅力に気づき、自分が従事する姿をイメージできるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	『MINERVA福祉資格テキスト 介護福祉士 人間と社会編』 ミネルバ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	2	生活保護受給者がギャンブルをするのは許されないのか？ ＜グループディスカッション＞			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	3	ギャンブル依存症者への支援			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	4	生活保護行政におけるSW① ＜グループディスカッション＞			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	5	生活保護行政におけるSW②			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	6	引きこもりの青年への支援 ＜グループディスカッション＞			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	7	若者の抱えている問題への支援			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	8	事例「教育分野のソーシャルワーク」① ＜グループディスカッション＞			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	9	事例「教育分野のソーシャルワーク」② ＜グループディスカッション＞			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	10	ケースマネジメント(ケアマネジメント)① ＜グループディスカッション＞			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	11	ケースマネジメント(ケアマネジメント)② ＜グループディスカッション＞			テキストの該当ページを読んでおくこと レポート課題		
	12	障害者の就労支援① ＜グループディスカッション＞			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	13	障害者の就労支援②			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	14	触法障害者の問題① ＜グループディスカッション＞			テキストの該当ページを読んでおくこと		
15	触法障害者の問題②			テキストの該当ページを読んでおくこと			
評価方法	指定された文献を購入した上でのレポートを課し、定期試験に匹敵するものとして評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループディスカッションの参加状況	○			◎		20%
	レポート等成果物の内容	○	◎		○		80%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を取得することができない。						

科目名	精神障害者の生活支援システム									
科目名(英)										
単位数	2単位	時間数	15コマ	担当者	宮崎 聡					
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目						
対象学科・学年	福祉心理学科 3年									
授業概要	精神障害者や家族の支援者であるPSWIにとって、精神障害とは何かを学び、精神障害者の生活のしづらさを専門職の視点から身につけることは、現場での即戦力へと繋がる。講義では、テキストに沿った事例を用いて、生活支援について検討を深め、支援の知識に加え支援活動が展開できるよう実践力を身につける。また、外部講師を招いて、より専門的な視点から現場の支援システムについて理解を深める。									
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○	その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○					障害の概念となるICFや障害の統計データを学び精神障害を説明することができる。				
		○				精神障害者の居住・就労支援について連携の必要性を身につけ、事例に応用できる。				
	○					精神障害に関連する制度・施策の理解し説明することができる。				
				○		精神障害に対する様々な支援方法について互いに意見を交わすことができる。				
			○		事例から精神障害者のニーズを把握し適切な支援の提供や配慮することができる。					
テキスト・教材 参考図書	中央法規出版 新・精神保健福祉士養成講座7 精神障害者の生活支援システム									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	障害の概念(ICF、障害者基本法、精神保健福祉法)の理解				該当範囲を事前に読んでおくこと				
	2	ICFを用いた事例検討				該当範囲を事前に読んでおくこと				
	3	精神障害者の生活の実際				該当範囲を事前に読んでおくこと				
	4	精神障害者の生活支援の理念と概念				該当範囲を事前に読んでおくこと				
	5	地域生活における精神障害者の人権				該当範囲を事前に読んでおくこと				
	6	精神障害者の居住支援				該当範囲を事前に読んでおくこと				
	7	精神障害者の居住支援に関する事例検討				該当範囲を事前に読んでおくこと				
	8	行政における相談援助				該当範囲を事前に読んでおくこと				
	9	精神障害者の就労支援				該当範囲を事前に読んでおくこと				
	10	外部講師(就労支援事業所 職員)による就労支援の実際を予定				該当範囲を事前に読んでおくこと				
	11	精神障害に関する映画観賞とレポート作成課題				レポート課題のため提出期限を厳守				
	12	精神障害者の地域生活支援システム①				該当範囲を事前に読んでおくこと				
	13	精神障害者の生活支援システム②				該当範囲を事前に読んでおくこと				
	14	講義総括①				該当範囲を事前に読んでおくこと				
15	講義総括②(前期定期テスト対策)				該当範囲を事前に読んでおくこと					
評価方法	①授業ではグループワークを実施するため、積極的な発言や互いの協調性が可能かを評価する ②レポート課題を出すため精神保健福祉士としても専門的な視点から課題に適した内容かを評価する ③定期試験(筆記)を実施する 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	◎	○		◎		80%			
	宿題・レポート	○	◎		○		20%			
履修上の注意	授業への欠席も評価に含める。									

科目名	精神保健福祉相談援助の基盤Ⅱ(専門)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	池田 将樹		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	精神保健福祉士の役割は、特に多職種との連動が必要になる精神科領域では、利用者が生活を送る上で欠かせない存在である。利用者が病気や障害特性を抱えながらも「本人らしい当たり前の生活」を目指していくために、精神保健福祉士は基本的な権利擁護の考え方や知識を身につける必要がある。この授業では、利用者を支援するうえで専門的な知識習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○				目標		
	○				相談援助をの基本となる権利擁護について学び、権利侵害が起こる原因を説明することができる。		
	○				権利擁護の考え方を知ったうえで、多職種との連携・協力の重要性を説明することができる。		
	○				権利擁護に関連した諸制度を3つ以上説明することができる。		
	○				利用者との普段の関わりの中から、丁寧な意思決定支援を意識することができる。		
	○				アセスメントの重要性について考え、利用者の変化に気づく観察の視点へと応用することができる。		
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 新・精神保健福祉士養成講座 精神保健福祉相談援助の基盤(基礎・専門)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	精神保健福祉分野における相談援助の体系-相談援助活動の対象①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	精神保健福祉分野における相談援助の体系-相談援助活動の対象②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	精神保健福祉分野における相談援助の体系-相談援助活動の目的と意義			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	精神保健福祉分野における相談援助の体系-相談援助活動の現状と今後の展開			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲-専門職の概念			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲-専門職の概念とその業務			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	7	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲-権利擁護の概念と範囲①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲-権利擁護の概念と範囲②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲-権利擁護の概念と範囲③			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲-精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲-専門職倫理と倫理的ジレンマ			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	12	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携-援助を支える理論			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携-援助の機能と概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携-多職種連携・チームアプローチの意義と概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携-多職種連携における精神保健福祉士の役割			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	確認テスト	○	○				20%
	授業態度				○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	精神保健福祉援助演習Ⅱ(専門)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	中山かおり		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握することが必要である。精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を身につけることを目的とする。①総合的かつ包括的な相談援助、医療との協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げる。②個別指導並びに集団指導を通して、擬態的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態で行う。						
授業形式	講義 △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○						
	○						
		○					
目標							
	精神障害者の生活や生活上の困難について理解し、説明できる。						
	精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について習得し、説明できる。						
	専門的援助技術として概念化し実践場面の中で活用できる。						
テキスト・教材 参考図書	適宜、資料配布 (参考:新・精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習(基礎・専門)」 中央法規)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション 授業の進め方や概要について説明			教材の準備		
	2~12	精神保健福祉援助実習における学生の個別体験の一般化及びグループワーク、個別面談による事後指導			精神保健福祉援助実習Ⅰの振り返りを行っておくこと 実習報告会の実施、レポート		
	13	事例:記録の技術	第13回以降、設定した事例を題材にして、相談援助場面及び相談援助の過程を想定したグループワーク及びロールプレイを行い、アウトリーチ、ケアマネジメント、チームアプローチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発等の実技指導を行う。				
		事例:チームアプローチの理解					
		事例:ストレングスモデル					
		事例:医療に結びつける援助					
	~	事例:地域移行支援					
		事例:地域移行支援					
		事例:ピアサポート					
		事例:家族支援					
		事例:ひきこもり					
	27	事例:地域における自死(自殺)					
	28	総括					
29	フォーラム参加			レポート			
30	フォーラム参加						
評価方法	宿題・レポートを実施する。実習報告会を実施する。授業への参加度、プレゼンテーションを含め評価をする。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	◎			○		30%
	授業態度・授業への参加度				◎		30%
	発表・作品		○		◎		40%
履修上の注意	精神保健福祉に限らず、これまで学んだことの復習をして理解を深めておくこと。精神保健福祉援助実習Ⅰでの体験を振り返り、各自の課題を整理して、演習に積極的に参加すること。						

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ								
科目名(英)									
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山かおり				
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○				
対象学科・学年	福祉心理学科3年								
授業概要	精神保健福祉援助実習の意義について理解できるよう、精神障害者の置かれている現状及びその生活の実態や生活上の困難について授業を行う。「実習要綱」「実習日誌」等を利用し、集団指導及び個別指導を通して実習に必要な知識や技術の確認、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題について、学生自身が考える授業を行う。								
授業形式	講義	△	演習:	○	実習:	△	実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○					精神保健福祉援助実習の意義について説明できる。			
	○					精神障害者の置かれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解し説明できる。			
		○				精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的な方法を展開できる。			
		○				精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。			
テキスト・教材 参考図書	実習日誌 適宜、資料配布(実習生必携「ソーシャルワーク実習ノート」 株式会社みらい)								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	オリエンテーション 授業の進め方や概要について説明				教材の準備			
	2	実習日誌への記録内容及び記録方法に関する理解(1)							
	3	実習日誌への記録内容及び記録方法に関する理解(2)							
	4	実習を行う施設等に関する基本的理解(1)				レポート			
	5	実習を行う施設等に関する基本的理解(2)				レポート			
	6	プレ実習 実習計画書作成指導							
	7	プレ実習				レポート			
	8	プレ実習後指導							
	9	実習計画書等作成(1)							
	10	実習計画書等作成(2)				作成書類の提出			
	11	実習計画書等作成(3)							
	12	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務、実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解							
	13	事前訪問							
	14	実習前指導							
15	巡回指導(訪問指導・スーパービジョン)								
評価方法	宿題・レポートを実施する。また、実習前において個別・集団指導を行う。参加度(欠席・遅刻には厳しく対応。授業への取り組み状況を重視)。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	宿題・レポート	◎			○		50%		
	授業態度・授業への参加度				◎		50%		
履修上の注意	演習Ⅱと関連して進めていく。次の課題を全て達成しており、実習の準備ができていることが「精神保健福祉援助実習Ⅱ」の条件となる:①精神保健福祉援助実習Ⅰの振り返りについてレポートの提出、②精神保健福祉援助実習Ⅰの実習報告会への参加、③宿題、レポートの提出、④実習前における個別・集団指導								

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	廣田 悦子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科 3年						
授業概要	第4巻(2学年)と第5巻(本学年:3年生)は同一の科目であり、連動している。第5巻のねらいとしては、『相談援助活動の展開、地域移行支援、地域を基盤にした相談援助の主体と対象、ケアマネジメント、地域を基盤にした支援とネットワーク等からなる。』“地域を基盤に”が強調されているように、第5巻では地域を基盤にした支援や展開の基本的な考え方や必要な技術を中心に授業を行う。 ※ 新精神保健福祉士養成講座 第5巻「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ」“はじめに”を参照。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					1、精神障害を対象とした相談援助技術(個別援助・集団援助の過程と相談援助に係わる関連援助や精神障害者と家族の調整および家族支援を含む)の展開について説明できる。	
	○					2、精神障害者の地域移行支援および医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方や支援体制の実際について説明できる。	
	○					3、地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用およびケアマネジメント、コミュニティワーク(地域相談援助に係わる組織、団体、関係機関および専門職との連携についての理解を含む)の実際について説明できる。	
	○					4、地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援(地域精神保健活動)の意義と展開について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	テキスト:精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ(中央法規 第5巻) 参考図書:授業中に紹介する						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	2	Ⅰ:相談援助活動の展開 1、相談援助活動の内容と方法 2、個別支援の実際と事例分析			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	3	3、集団を活用した支援の実際と事例分析 4、事例による相談援助活動の検討			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	4	Ⅱ:家族調整・支援の実際と事例分析 1、精神保健福祉における精神障害者と家族の関係			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	5	2、家族支援の方法			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	6	3、事例による家族調整・支援の検討			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	7	Ⅲ:地域移行の対象および支援体制 1、地域移行の対象 2、地域移行の体制			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	8	3、精神保健福祉士の役割と多職種との連携			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	9	4、精神科入院患者の地域移行支援・地域定着支援の取り組み			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	10	5、地域移行にかかわる機関と組織 6、事例による地域移行支援の検討			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	11	Ⅳ:地域を基盤にした相談援助の主体と対象 1、精神障害者を取り巻く社会的状況 2、地域相談援助の主体			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	12	3、地域相談援助の対象			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	13	4、地域相談援助の体制			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	14	5、事例による地域を基盤にした相談援助活動の検討			テキストの該当ページを読んでおくこと		
15	前期授業 振り返り			テキストの該当ページを読んでおくこと			
評価方法	① 出席率(国家試験受験に基づく法定授業なので出席は10回以上であること) ② レポート(指示された日時までに提出) ③ 態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	宿題・レポート	◎					10%
	授業態度・参加度				◎		10%
履修上の注意	1. 国家試験に必要な科目であるため、出席は10回以上である。 2. 授業中にスマホ等を机の上に置かない、触らない。授業に必要な場合は教員が指示する。						

科目名	カウンセリング概論						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30	担当者	富沢理恵		
実施年度	2019年	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	1～2年で学んだ「ピアヘルパー」から一歩すすみ「心理カウンセリング」の概要を学ぶ。カウンセリングに必要な技法「受容・共感・傾聴」を実践で使えるよう理解する。また、ロールプレイで「私を語る」ときに必要となる「自分自身について」を自身で再確認するとともに、「他者から見られている自分」と「自分の思う自分」の違いを知り、新たな「自分」の発見を促す。また、「交流分析」を用いて、「自分の見える化」・「他者の分析」・「会話分析」・「ストローク原理」を学ぶことでカウンセリングの理解を深める。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○	○			カウンセリングに必要な技法を理解し実践で活用することができる。	
	○	○	○			交流分析のエゴグラムを理解し自己理解を深めることができる。	
	○	○	○			交流分析の会話分析を理解し言語コミュニケーションで活用することができる。	
	○	○	○			交流分析のストローク理論を理解し他者と円滑にかかわることができる。	
テキスト・教材 参考図書	講師作成ハンドアウト						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	・オリエンテーション ・心理カウンセリングとは			配布プリントをしっかりと復習しておくこと		
	2	授業内の傾聴訓練で「自分のこと」を語るできるよう、ワークを通して「自分とは」を自分自身で知る			配布プリントをしっかりと復習しておくこと		
	3	「自分を知る」① のグループシェアリング&全体シェアリング			配布プリントをしっかりと復習しておくこと		
	4	・カウンセリングの言語的技法とは・「受容」「繰り返し」「明確化」とは			配布プリントをしっかりと復習しておくこと		
	5	・「支持」「質問」「」とは			配布プリントをしっかりと復習しておくこと		
	6	・技法を用いてのロールプレイング ・グループシェアリング ・全体シェアリング			配布プリントをしっかりと復習しておくこと		
	7	・カウンセリングの非言語的技法とは・「場面構成」の方法・「視線」「表情」「ジェスチャー」「身体接触」「声の質量」			配布プリントをしっかりと復習しておくこと		
	8	・カウンセリングの非言語的技法とは・「服装」「座り方」「時間厳守」「言葉遣い」			配布プリントをしっかりと復習しておくこと		
	9	・技法を用いてのロールプレイング ・グループシェアリング ・全体シェアリング			配布プリントをしっかりと復習しておくこと		
	10	交流分析とは			配布プリントをしっかりと復習しておくこと		
	11	・エゴグラムとは ・エゴグラムの作成			配布プリントをしっかりと復習しておくこと		
	12	・エゴグラムのシェアリング			配布プリントをしっかりと復習しておくこと		
	13	交流分析から考える「会話」の分類			配布プリントをしっかりと復習しておくこと		
	14	・ストロークとは ・条件の有無／否定・肯定のストローク			配布プリントをしっかりと復習しておくこと		
15	カウンセリング現場での交流分析の導入			配布プリントをしっかりと復習しておくこと			
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					70%
	発表				○		30%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は定期試験(科目履修認定)を受験することができません。						

科目名	情報処理 I						
科目名(英)	Information Processing I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	岡部 充子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科・3年						
授業概要	現代社会においてITをただ利用だけでなく安全に活用できる能力が不可欠です。授業では、Windowsの基礎操作、報告書などの文書を効率的に作成したり、与えられたデータから表を作成・集計・グラフ化したり基礎的なITスキルの習得を目指します。また、IT社会の一員として守らなければいけない情報モラル・セキュリティの基礎知識の習得も目指します。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					情報モラル・セキュリティの基礎用語について説明することができる	
		○				基本的な文書を効率的に作成することができる	
		○				与えられたデータから表作成、集計、グラフ化することができる	
				○		課題演習など自分で考えて完成させることができる	
テキスト・教材 参考図書	・FOM出版 情報リテラシー入門編 Windows8.1 Word2013 Excel2013 PowerPoint2013						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ガイダンス、Windows基本操作				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと	
	2	情報モラル・情報セキュリティ				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと	
	3	文書作成01-Word基本操作				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと	
	4	文書作成02-図や表の挿入と編集				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと	
	5	文書作成03-表現力をアップする操作				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと	
	6	文書作成04-ビジネス文書作成				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと	
	7	中間課題01-これまでの理解度を確認するテストと解説				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと 中間課題でできなかった箇所を復習すること	
	8	表計算01-Excel基本操作				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと	
	9	表計算02-表作成・編集と数式(1)				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと	
	10	表計算03-数式(2) 関数				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと	
	11	表計算04-グラフの作成と編集				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと	
	12	表計算05-データベース操作				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと	
	13	中間課題02-これまでの理解度を確認するテストと解説				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと 中間課題でできなかった箇所を復習すること	
	14	総合演習-報告書作成				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと	
15	定期試験(情報モラル・セキュリティ、文書作成、表計算)				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと		
評価方法	(1)授業内で毎回演習課題、総合演習を実施 (2)中間課題を2回実施 (3)定期試験を実施 以上を、下記の割合で評価する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	小テスト(中間課題)		◎		○		40%
履修上の注意	・わからないことは質問して授業内で解決できない場合は復習して次の授業に臨みましょう。 ・出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格はありません。						

科目名	更生保護制度						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山かおり		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	相談援助に関わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域の支援者、更生保護制度、医療観察法について理解を深めていく。						
授業形式	講義	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					相談援助において必要となる更生保護制度について説明することができる。	
	○					更生保護を中心に、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について説明することができる。	
	○					刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携の在り方について説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	1. 新・社会福祉士養成講座「更生保護制度」中央法規 2. 社会福祉小六法 ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 授業の進め方や概要について説明				教材の準備	
	2	医療観察制度の概要(1)					
	3	医療観察制度の概要(2)					
	4	医療観察制度の概要(3) 生活環境調査生活環境調整					
	5	刑事司法の中の更生保護(1) 少年					
	6	刑事司法の中の更生保護(2)					
	7	刑事司法の中の更生保護(3) 仮釈放					
	8	刑事司法の中の更生保護(4) 保護観察					
	9	刑事司法の中の更生保護(5) 更生緊急保護					
	10	刑事司法の中の更生保護(6) 被害者施策、恩赦、犯罪予防					
	11	更生保護の担い手(1)				第2章	
	12	更生保護の担い手(2) 保護観察官の業務の実際				第5章	
	13	総括					
	14	司法施設見学					
15	司法施設見学				レポート		
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)宿題・レポートを実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	小テスト	◎					10%
	宿題・レポート				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	就職実務Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山かおり		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	社会人になる上でのマナーや身嗜み、教養知識を身につける。まずは、就職活動における企業研究・履歴書添削・面接指導を行い就職内定へ繋げる。また、クラスや学科行事を行い学科・学年を跨いで交流を深める事でコミュニケーション力向上や協調性を身につけ業界へ適した人材育成に繋げる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		業界に適した清潔感のある身嗜みをし日常的に維持することができる	
				○		社会人としてのマナー(挨拶・電話・メール・態度など)を身につけ実践することができる	
	○					就職活動における報連相を素早く行うことができる	
	○					好感のもてる表情や口調で自身の伝えたいことを話し、企業の求める人材像に相応した面接ができる	
			○			自身の立場をわきまえて行動し、周囲へ配慮することができる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック、求人票、受験者報告書、配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	求職票受付面接とは①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	2	求職票受付面接とは②			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	3	求職票作成①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	4	求職票作成②			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	5	求職票作成③			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	6	求職票受付面接練習①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	7	求職票受付面接練習②			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	8	求職票受付面接練習③			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	9	求職票受付面接練習④			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	10	求職票受付面接(本番)①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	11	求職票受付面接(本番)②			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	12	履歴書下書き①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	13	履歴書下書き②			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	14	先輩の話(就職とは)①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
15	先輩の話(就職とは)②			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと			
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度				◎		50%
	意欲・努力				◎		20%
	提出物状況				◎		30%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は成績評価を行わない。						

科目名	金曜ゼミ I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山かおり		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	就職内定に向けて、施設や事業所、会社等において自習実習を計画的に実施する。						
授業形式	講義:	演習: △	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		希望就職施設や企業についての理解を深め、内定につなぐことができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	2	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	3	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	4	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	5	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	6	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	7	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	8	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	9	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	10	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	11	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	12	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	13	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	14	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
15	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)						
評価方法	R評価とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				○		70%
	活動報告書				○		30%
履修上の注意	活動報告書がない場合は履修認定しない。						

科目名	精神保健福祉援助実習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	120時間	担当者	中山かおり		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	実習指導者による指導のもと、精神保健福祉相談援助に係る知識と技術について実際的に学ぶ。3年次の8月～9月の間に精神科医療機関等では90時間以上、地域の障害福祉サービス事業を行う施設等で120時間以上の配属実習を行う。						
授業形式	講義	△	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について、具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等の体得をしている。	
	○					精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握し説明できる。	
		○				精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	
		○		○		総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	精神保健福祉援助実習日誌						
授業計画	授業項目・内容・授業外学修指示						
	<p>1. 精神科病院等の病院において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。</p> <p>(1) 入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助</p> <p>(2) 退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助</p> <p>(3) 多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助</p> <p>2. 精神科診療所において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。</p> <p>(1) 治療中の患者及びその家族への相談援助</p> <p>(2) 日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助</p> <p>(3) 地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助</p> <p>3. 学生は、地域の障害福祉サービス事業を行う施設等や精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受けるものとする。</p> <p>(1) 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成</p> <p>(2) 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成</p> <p>(3) 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との支援関係の形成</p> <p>(4) 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)への権利擁護及び支援(エンパワーメントを含む)とその評価</p> <p>(5) 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践</p> <p>(6) 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解</p> <p>(7) 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解</p> <p>(8) 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実践</p> <p>(9) 当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</p> <p>4. 精神保健福祉援助実習指導担当教員は、巡回指導等を通して、実習事項について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。</p>						
評価方法	実習指導者の評価を含めて総合的に勘案する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
			○		◎		50%
			◎		○		50%
履修上の注意	「精神保健福祉援助実習指導Ⅱ」における課題を全て達成していることが履修の条件となる。						